

タイトル

授乳期初期における直接母乳授乳と哺乳びん授乳の併用について 第 2 報

石丸あき、斉藤哲

ビジョン株式会社 中央研究所

【目的】

直母授乳と人工乳首授乳を併用する場合、産後 3 ヶ月間に渡り併用率は（直母率も）低下し、人工乳首のみに依存する割合が増加する傾向が報告されている。そこで本研究では、併用率の発達的变化に影響を及ぼしている要因を抽出することを目的とし、産後 2 週から 6 週に渡る併用実態を調査した。

【方法】

P 社モニター制度に登録しており、産後早期において、P 社 S 穴乳首所持者 39 名（以下 P）、海外 A 社新生児用乳首所持者 37 名（以下 A）を対象とし、産後 6 週間に渡って授乳記録および質問紙調査を実施した。産後 2 週において、母親の平均年齢（P）32.8 歳 /（A）31.0 歳、児の平均日齢（P）10.9 日 /（A）11.4 日、児の平均出生体重（P）2913g /（A）3107g であった。

【結果と考察】

産後 2 週における直母のみ授乳率は、13%(P)/30%(A)、併用率 85%(P)/70%(A) となり、A 乳首使用群における高い直母のみ授乳率がみられた。6 週における直母のみ授乳率は、23%(P)/38%(A)、併用率 69%(P)/46%(A) となり、A 乳首使用群では 5 名（14%）が A 以外の人工乳首使用へと移行した。質問紙結果より、ミルク穴サイズが $P < A$ であることが、A での併用率の低下に影響を及ぼしたことが推測できた。人工乳首のみで授乳する割合は、2 週において 1 名 (P)/0 名 (A) で、6 週では 2 名 (P)/1 名 (A) であった。併用内容の詳細について今後さらに検討していく予定である。